

令和4年度 併設型小中一貫校 豊平学園北広島町立豊平小学校 学校評価自己評価表

1 経営目標・教育目標・経営方針等

<<校訓>> 「継続は力なり」(Practice makes perfect.) 【豊平学園教育目標】 志高く 未来を拓く 児童生徒の育成 【小学校学校教育目標】 ふるさとに学び、ともに学び続ける たくましい児童の育成	<<めざす子ども像>> ◆とことんやる子 (基本的な生活習慣を身につけ、心身ともに元気な子) ◆よりよく学び続ける子 (学ぶ楽しさを味わい、確かな学力を身につけた子) ◆ひとの気持ちを考え行動する子 (思いやりや社会性など豊かな心を持った子) ◆らぶ(love)ある子 (郷土に誇りと愛着を持った子)	【経営方針】 併設型小中一貫校・学校運営協議会設置校(コミュニティ・スクール)としての特性を生かし、「地域の教育力を生かした児童生徒の力を最大限に伸ばす学校」をめざす。 ■小中一貫教育の推進 ■保護者・地域と共に創る「ふるさと学習」の充実 ■地域へ貢献する学校づくり
--	---	--

2 中期・短期目標、評価計画、評価・達成状況 《年間を通して計画的に評価し改善を図っていく》

項目	評価計画					自己評価					学校運営協議会評価		改善方策
	中期経営目標 (小中一貫)	短期経営目標 重点	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標 [年間]	最終 (目標)	最終 (達成値)	達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	
信頼される学校	コミュニティ・スクールを生かし、地域の願いを大切にした信頼される学校・地域に貢献する学校づくりを推進する。	ふるさと学習・地域交流の推進 情報発信・学校公開の充実	○年間計画に基づき、地域の教育力を活用した「ふるさと学習」を実施する。 ○学校運営協議会を活性化する。 ○学校の取組、教育実践をHP、学校便り、ちゅピCOM等で、発信する。	・児童アンケートの肯定的評価の割合	90%	90	91.7	102	A	○12月の児童アンケートで「豊平のことを学習することが楽しい。もっといろいろな学習がしたい」という設問における肯定的評価は91.7%。前回7月の91.7%と同数値だが、昨年度と比較すると微増(7月90.5%、12月85.9%)。 ○地域の方を中心とした外部講師の招聘は、中間評価以降も児童の意欲や肯定感の維持につながっている。 ○保護者アンケートの肯定的回答の割合は68.3%。7月81.3%を下回った。持続可能かつ効果的な方策を考える必要がある。	B	ほぼ適正である。	○「ふるさと学習」等を通して地域の多くの人材と出会い、つながる学習を充実させることで郷土愛を育む。児童の学びの自覚化も重視していく。 ○学校の取組を効果的に発信する方法について、義務教育学校移行も見据えて工夫する。地域の方の学校訪問の機会を有効に使い、児童の様子も公開していきたい。
たくましく健やかな体	生活の基盤となる健康な体、気力・耐力の育成を図るとともに、基本的な生活習慣の定着を図る。	基本的な生活習慣を身につけ、心身ともに元気な児童の育成 生活リズム 走力	○各学級で基本的な生活習慣に関する指導を年2回実施する。 ○「生活リズムを整えるための取組」を年3回実施する。 ○体力づくり(走ること)の目標を設定させ、体育・業間体育等で取り組ませる。	・実態調査による目標達成の割合 ・新体力テストにおけるシャトルランの記録が県平均を上回った児童の割合	90% 60%	90 60	86.1 62.0	95.6 103.3	B A	○基本的な生活習慣に関する指導を各学級2回以上できた。「生活リズムを整える取組」では、3回目の実施ではどの項目においても前回より上昇した。記録用紙の工夫により、前回と比較しやすく効果的であった。 ○業間マラソンやマラソン大会等の取組により、上昇した(前回47.7%)。引き続き継続した取組を行い、体力の向上を図る。また来年度は総合的な体力向上を目指したい。	A	適正である。 ・広島県全体の体力が落ちている。おそらく、コロナ禍の状況が影響しているのではないか。その中で、よく体力の維持・向上を図っている。	○生活習慣の改善は学校生活の安定につながる。家庭の教育力が不可欠であることから意識の向上を目指したい。 ○今年度の体力テスト結果から投力などにも課題が見られた。総合的な体力向上にも力を入れる。
豊かな心	社会人として必要な資質や能力の基礎を築き、たくましく生きる力を育成する。	思いやりや社会性など、豊かな心を持った児童の育成 3つの約束 自主的活動	○来校者に対しても気持ちの良い挨拶ができるよう、計画的に重点週間を設け、目標をもって取り組ませる。 ○北風と太陽作戦(みんなのために活動していることや思いやりの心を見取る評価活動)を年間を通じて実施する。	・挨拶で2回表彰を受けた児童の割合 ・アンケートで「みんなのためになる活動をしている」と答え、具体が書けた児童の割合	80% 80%	80 80	38.1 74.3	47.6 92.8	D B	○来校者から挨拶を褒められるなど、気持ちの良い挨拶ができる児童は増えつつあるものの、二極化傾向が見られる。挨拶の重点週間では、全教員で全児童を評価しているため、挨拶を苦手としている児童の頑張りを的確に評価できているとは言いにくく、そういった児童が高学年になるにつれて諦めている傾向があると思われる。 ○前回と比較して2.5ポイントしか上げることができなかった。学級ごとに見ると、前回と今回はほぼ同数であり、第4学年が3名肯定的回答が増えている。自己肯定感が低いために、自身の行動を評価できない児童に対して、教員や友達からの価値づけがもっと必要だった。	B	ほぼ適正である。 ・挨拶は、今回はD判定だが、できていると感じる時も多い。児童はこれまで、コロナ禍においてマスク着用、給食は黙食、自由におしゃべりすることも難しい…と多少の遠慮がある生活、積極的になりきれない生活を送ってきた。今後は、地域も積極的に声をかけることで共に挨拶の向上に取り組みたい。	○より積極的に挨拶ができる児童を目指して、自治的能力の育成とも連動させながら児童会を中心とした取組を模索する。 ○人のためになる行動、思いやりのある行動につながるよう自尊感情を育みたい。児童の様子をしっかり見取るとともに、個や集団に対する肯定的な価値付けを継続する。
確かな学力	学ぶ楽しさを味わわせ、基礎・基本の確かな学力の定着を図る。	学ぶ楽しさを味わい、確かな学力を身につけた児童の育成 個に応じた学習 学力向上	○児童の学ぶ喜びが高まる「導入」「振り返り」を重視した指導の工夫や授業作りに取り組む。 ○基礎学力の系統的な積み上げによる授業改善を行う。	・学習アンケートにおける肯定的回答の児童の割合 ・単元末テスト平均通過率(国・算)80点以上 ・CRTテストにおいて全国比105以上の児童の割合	90% 80% 65%	90 80 65	 国84.8 算63.8 国55.2 算56.1	 国106 算79.8 国84.9 算86.3	B B	○学習内容が難しくなる中、肯定的な回答について高い水準をキープできた。しかし、喜びを感じていない児童が一定数いる現状があるため、「理解したい」「挑戦しよう」と思える課題設定や取組が課題である。 ○思うように点数に結びついていない学年が多かった。思考力・判断力・表現力等の力は、基礎の上に成り立つものであるため、スパイラル(反復)を意識して定着させる必要があると考えられる。	A	適正である。	○学ぶことが楽しいと感じる児童を目指し、授業づくりや指導の工夫に引き続き取り組む。 ○基礎基本の学力定着も急務のため、反復やポイントを押さえた指導、個に応じた指導の工夫に取り組む。

評価基準 【自己評価】 A：100≦(目標達成) B：80≦(ほぼ達成)<100 C：60≦(もう少し)<80 D：(できていない)<60
【学校運営協議会評価】 A：自己評価は適正である B：自己評価はほぼ適正である C：自己評価はあまり適正でない D：自己評価は適正でない E：分からない